

科目名	現代世界と平和	開講学期	後期
担当教員	河野 健一	単位数	2単位
授業概要とテーマ	<p>ポスト冷戦の21世紀に入った現在も、各地で武力紛争やテロ、飢餓、エイズや新型インフルエンザなど感染症の拡大によって多くの命が失われている。北朝鮮の核実験に代表されるように大量破壊兵器の拡散は地域の緊張を高め、地球温暖化をはじめとする環境破壊の進行は人類の存亡にかかわる脅威となっている。どうすれば人々が安心して暮らせる平和な世界を構築できるのか。そのために、国際社会、日本、私たち市民は何をすべきであり、何ができるのか。こうした問題意識に立って世界と地域の安定及び平和にかかわるカレントなテーマを取り上げ、多様な角度から考えるのが授業の趣旨である。現代史の最先端で生じている事象を教材とした「平和講座」であり、「平和学入門」である。</p> <p>授業は政府機関、研究者、NGOの活動家など学外から招いた講師と本学教員による講義を取り混ぜた混成方式で実施する。ただし、被爆地・長崎で行う平和講座であるので、最初の3-4回程度は被曝者の体験談など核にかかわるテーマとする。</p>		
到達目標	<p>戦争や民族・宗教紛争だけでなく、地球温暖化、食糧やエネルギー問題、貧困や飢餓、感染症などを含む広義の安全保障概念に立って、世界や地域の平和と安定を脅かす様々な問題に目を開き、自ら考える力を身に着ける。</p>		
授業計画	<p>世界の動きに即応するためメインテーマは毎年変え、講座内容も年ごとに刷新する。たとえば、05年度のメインテーマは「戦後60年・被爆60年」、06年度は北朝鮮の1回目の核実験を受けて「大量破壊兵器・テロ・宗教民族対立」とした。09年度は「グローバル化時代の平和――国際機関・国家・市民の役割」とする。</p> <p>グローバル化の時代、一國平和主義はもはや成り立たない。核の拡散、食糧やエネルギーをめぐる利害対立、感染症は国境を超えて平和と人命を脅かす。地球温暖化は人類そのものの存続にかかわる。こうした問題に効果的に対応するには国境を超えた協力が不可欠である。紛争後の復興や平和定着、エイズ対策などでは、国際機関や各国政府だけでなく、NGOが大きな役割を果たすようになった。学外から第一線で活躍している専門家を招いて講義してもらう予定だが、後期の授業であるため、外部講師の招聘交渉は7月以降になる。ここに記している授業計画はあくまで暫定的なものであり、招聘交渉がまとまった段階で順次、確定的な講義スケジュールを書き入れる。また、講師の都合により、講義スケジュールを途中で変更することもある。</p> <p>途中で複数回、レポートを提出してもらう。講義を漫然と聞き流さずノートをしっかり取り、関係の新聞記事や本でテーマについての知見を深め、レポートに反映させる自主努力が不可欠である。遅刻や授業中の教室の出入り、私語、居眠りは厳禁。講師との質疑応答の時間を設けるので、積極的に質問してほしい。</p>		
第1回	講義の趣旨説明と履修上の留意事項（河野によるオリエンテーション）。		
第2回	「原爆の業火を生き延びて」――長崎の被曝者の証言。・ 山脇佳朗氏		
第3回	海外のヒバクシャを救う――長崎大学の国際医療支援プロジェクトの専門家。・ 長崎大学医歯薬学研究科 高村昇教授		
第4回	長崎の鐘は今日も鳴る・・・永井隆博士の残したメッセージ・ 永井隆記念館館長 永井徳三郎氏		
第5回	平和に果たすメディアの役割・ NBC長崎放送ラジオ局ラジオキャスター 平松誠四郎氏		
第6回	“テロとの戦い”はなぜ続くのかーアフガニスタン問題を考える・ 国土館大学客員教授 渡邊光一氏		
第7回	戦乱のアフガンで医療支援と灌漑用水路建設に取り組む・ NGO「ペシャワール会」事務局長 福元満治氏		
第8回	貧困・飢餓・感染症に苦しむアフリカ・ニジェールで、母子保健指導活動に参加して・ 看護栄養学部助教 岩永洋子氏		
第9回	東アジアの平和構築と韓国・日本の役割・ 駐福岡大韓民国総領事館総領事 金賢明氏		
第10回	中東和平の行方・ 毎日新聞社外信部 樋口直樹氏		
第11回	海の安全への国際貢献――海上自衛隊のエデン湾派遣を考える・ 元海上自衛隊呉総監部総監 仲摩徹彌氏		
第12回	国連安全保障理事会と「平和」・ 国際情報学部准教授 李（岩本）禎之氏		
第13回	沖縄から見た日本の安全保障――基地問題を中心に・ 沖縄タイムス社論説委員 屋良朝博氏		
第14回	東アジア共同体と日本の外交・ 筑波大学名誉教授 進藤榮一氏		

第15回	授業のまとめ
学生に対する評価	<p>【成績評価の基準】</p> <p>平成19年度以前入学生  A…80～100点  B…70～79点  C…60～69点  D…59点以下</p> <p>平成20年度以降入学生  A（秀）…90～100点  B（優）…80～89点  C（良）…70～79点  D（可）…60～69点  F（不可）…59点以下</p> <p>【成績評価の方法】  毎回、出席をとる。外部講師による講義が中心なので、試験は行わない。その代わりに、幾つか講義が終わるごとにレポートを提出してもらう。出席点、レポートの内容、授業への熱意を総合的に判定して成績評価を行う。  正当な理由のない欠席は1回について10点減点するが、3回目以降は15点減点する。従って4回以上欠席すれば自動的に失格となる。レポートを1回でも提出しなかった者も不合格扱いとする。</p>
テキスト	特になし。学外講師にも講義のレジュメを準備するよう要請する。
参考書	現代史の最先端で進行中のカレントなテーマについて話してもらうことが多いので、日頃から新聞やテレビのニュース番組などで内外の動きをしっかりとフォローしておくことが大切。できれば講義に先立って、テーマに関連する本を図書館で探して読んでおくことが望ましい。
履修上の注意等	多忙な専門家を東京など遠方から講師に招いて実施する授業だから、マナーを守って真摯な姿勢で臨んでほしい。昨年を受講生の中には、教室を高野の昼寝の場と決め込んだり、他の学生の迷惑も考えずに中断なく私語をする者が複数いたが、そうした人は最初から受講しないでほしい。旺盛な好奇心を持ってテーマとかかわる新聞記事や本を読んで知見を深め、講義を自らを豊かにするきっかけにもらいたい。